

「一生勉強、一生青春」

開倫塾

塾長 林 明夫

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

1. はじめにー私の好きな言葉ー

(1) 「ブルドック魂」(食いついたら離すな) 足利市立山辺中学校 クラス担任 岡田忠治先生

(2) 「自他共栄」(自分も他人も共に栄えよう) 山辺中学校柔道部 椎名弘先生

(3) 「一所懸命」(一つの所で命を懸けるくらい熱心に取り組もう)

栃木県立足利高校 マラソン大会の合い言葉

(4) 「独立自尊」(個人も国も独立してはじめて自ら尊いといえる) 慶應義塾創始者 福沢諭吉先生

(5) 「教育ある人とは一生勉強し続ける人」 経営学者 ドラッカー先生

(6) 「いつまでも若々しく生きる」(日本にヨガを紹介した) 中村天風先生

(7) 「会った人が皆友達」
(8) 「よいことをして忘れる」 } 京都一燈園 石川洋先生

(9) 「一生勉強、一生青春」 足利市在住の書家 相田みつを先生

(10) 「子(し)日(い)わく、学(まな)びて時(とき)に之(こ)れを習(なら)う、亦(ま)た説(よろこ)ばしからずや。朋(とも)有(あ)り遠方(えんぽう)より来(きた)る、亦(ま)た楽(たの)しからずや。人(ひと)知(し)らずして慍(いきどお)らず、亦(ま)た君子(くんし)ならずや。」

(通釈)

『孔子が言った。学問をして、その学んだところを、復習できる機会を逃さずに、何回も何回も、くり返して復習すると、学んだところのものは、自分の真の知識として完全に消化され、体得される。これはまた、なんと喜ばしいことではないか。このようにして、知識が豊かになれば、道を同じくする友達が、遠い所からまでもやって来て、学問について話しあうようになる。これはまた、なんと楽しいことではないか。しかし、いくら勉強しても、この自分を認めてくれない人が世間にはいるもの。そうした人がいたとしても、怨まない。それでこそ、学徳ともにすぐれた君子ではないか。』

* 須永美知夫著「論語抄」 史跡足利学校事務所刊より引用

2. 効果的な学習方法

(1) 「教育成果を決定する要因」は、「本人の自覚」と「先生の力量」の2つ。

① 「自覚」を持って学習すること。

② 「よい先生」「師匠」に就くこと。

* 「励まし合う仲間」を持つことも重要→「励まし合う仲間づくり」をすること。

(2)「学習の3段階理論」

ものごとを学習(学び習い実際に応用できるようになる)するときは、3つの段階に分けて考えることも有用(役に立つ)。

①「理解」の段階 (学ぶ)

(ア)「うんなるほど」と「よくわかる」「腑^ふに落ちる」こと。

(イ)「学校の授業」でよく「理解」できることが多い。

(ウ)学校などでの「授業の受け方」

i)両手を机の上に置き、先生の目を見て真剣に先生の話に耳を傾けること。

ii)必要なことは「メモ」を取ること。

iii)先生の指示に従って作業等をする事。

iv)よくわからなければ、先生の許しを得て質問をすること。

(エ)理解を妨げること

i)「遅刻」「欠席」「早退」

ii)「忘れ物」

iii)「私語(おしゃべり)」「ケータイ」「居眠り」「ボーッとしていること」

(オ)授業を聴かなくても、自分自身で教科書などを学ぶことで「理解」をすることもできる。

(辞書、参考書などを使いながら。)

「予習は何のためにするのか」

わからないことをはっきりさせて授業に臨むために、予習は行う。得意科目、好きな科目は教科書を手にした瞬間からどんどん予習をし、1日も早く教科書を勉強し終え、次の学年の教科書や参考書を勉強すること。予習をしていてわからないことがあれば、印をつけておくこと。

②「定着」の段階 (習う)

・授業や自習で一度「うんなるほど」と「よくわかったこと」「腑^ふに落ちたこと」「学んだこと」を確実に身に付けることを、「定着」という。

・「定着」にも3つの段階があります。

(ア)一度うんなるほどとよくわかったこと、腑^ふに落ちたこと、つまり「理解」したことを何も見ないでスラスラ正確に言えるようになること。

i)このために役に立つのが、「音読」つまり「大きな声を出して読むこと」。何十回、何百回も「音読練習」を繰り返すこと。

ii)何十回、何百回も「音読練習」を繰り返しながら、一度「うんなるほど」と「理解」したことを何も見ないでスラスラ正確に言えるまでにすること。

iii)「音読練習」はすべての科目に有用。

(イ)「音読練習」を何十回、何百回も繰り返して何も見ないでスラスラ言えるようになったことを、何も見ないで正確に「楷書(かいしょ)」で書けるまでにすること。

i)「楷書」で正確に書けるようになるまで、何十回、何百回も「書き取り練習」をすること。

ii)「書き取り練習」はすべての科目に有用。

(ウ)授業や自習で一度行った「計算問題」や「練習問題」で、十分「うんなるほど」と「理解」したものについては、問題を見た瞬間に条件反射で正解が出せるまでにすること。

i)そのためには、一度「うんなるほど」と「理解」した「計算問題」「問題練習」を何十回、何百回も行うこと。

ii)解いてわからない問題は「理解」が不足しているのだから、「うんなるほど」とよく「わかる」まで、時間をかけてよく考えること。どうしても「理解」できなければ、参考書で調べる。それでも「理解」できなければ、友人に教えてもらうこと。それでも「理解」できなければ、最後は先生に質問しに行くこと。初めから先生にすべて質問することは少しずつ我慢し、自分で考え、自分で調べる能力を少しずつ身に付けること。

(エ)「音読練習」「書き取り練習」「計算(問題)練習」、この3つの「練習、練習、また練習」で、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を正確に身に付ける、つまり「定着」させることができます。

＊ OECD(経済協力開発機構)の「15歳時の学力到達度調査(PISA 調査)」で、2003年度世界一となったフィンランドでは、一度「うんなるほど」と「理解」した内容を「練習、練習、また練習」で正確に身に付けた(定着させた)ことで創造力や読解力の基礎となる基礎学力を身に付けたと言われております。現代に最も求められる **creativity**(クリエイティビティ・創造性)も、知識の正確な「理解」と「定着」が前提となります。

(オ)「定着」のためには、3つの「練習、練習、また練習」のための時間をとることが求められます。3つの「練習、練習、また練習」の時間さえ確保すれば、誰でも一度「うんなるほど」と「理解」した内容を確実に身に付けられます。「定着」させることができます。

(カ)最大の課題は、「定着」のための3つの「練習、練習、また練習」の時間をどう確保するかとなります。大学入試でもこの3つの練習を確実に行えば、誰でも偏差値を60以上確保できます。(学校の定期テストでは、誰でも限りなく100点満点が取れます。)高校での勉強や大学入試に限らず、どのような勉強にも応用できますので、是非「定着」のための3つの「練習」時間の確保の方法を考え身に付けて下さい。

(キ)「定着のための3つの練習」時間を妨げるもの

i)TV ii)ファミコン iii)e-mail iv)ケータイ v)マンガ vi)悩むこと vii)長風呂

(ク)大学受験生は、「自覚」を持って、自分の自由に使えるありとあらゆる時間を「練習、練習、また練習」に費やすことを偏差値60以下の科目について行うことをお勧めします。小間切れの時間でも、また、どこでも、この「練習、練習、また練習」はできます。少ない時間を有効に使って下さい。

③「応用」の段階

(ア)合格点が取れること。(定期試験では、限りなく100点満点が取れること。)

i)合格点を取るためには、「過去問」や「予想問題」を何年分か(何回分か)じっくり解いてみる。

ii)間違えた問題があった場合、その原因が ㉑「理解」不足か、㉒「定着」のための「練習」不足か、㉓「応用力」不足かをつきとめること。

- iii) ③「理解」不足なら、「教科書」や「参考書」「授業中のノート」「辞書」などを用いてもう一度勉強し直すこと。「うんなるほど」と十分に「理解」できたら、3つの「練習、練習、また練習」を繰り返し、正確に「定着」させることも忘れないこと。

iv) 「理解」はできているか。「うろ覚え」が原因で間違えた場合には、「練習、練習、また練習」を繰り返すこと。なぜ計算練習や問題練習で、問題を見た瞬間に正解がパッと条件反射で出るようにした方がよいのか。一度やったことのある問題やその類似問題がパッパッと瞬間的に正解できれば、それらに用いる時間が少なくてすみ、自分にとって初めて出会った問題とゆっくり対応できるからです。よくできる科目ほど早くテストが終わるのは、ほとんどの問題が条件反射で解けるからと言えます。高い得点を取りたいければ、一度やったことのある問題は十分「理解」した上で、条件反射で正解できるまでにすることです。「ゆとり」は、「計算(練習)」「問題練習」を繰り返し行うことから生まれます。

- v) センター試験の問題は、1週間に1年分を確実に研究すること。

(イ) 社会に出て実際に用いられること。

3. 何のために働くのか

- (1) 「Decent Work(ディーセント・ワーク, ちゃんとした仕事、適正な仕事)」とは、

①仕事を通じて「自己実現できる」仕事

②仕事を通じて「生活できるだけの収入が得られる」仕事。

* 「何のために働くか」といえば、「Decent Work」の考えを参考にすれば ①「自己実現」と ②「生活できるだけの収入を得る」ためと言える。

- (2) 「仕事」とは何か。

①「仕事」とは、「世の中の役に立つこと」「人様のお役に立つこと」。

②「役に立つ」とは、顧客(お客様)の「問題解決」になること。お客様の問題を解決しなければ、仕事をしたことにならない。お客様の問題解決に少しでも役に立たなければ仕事ではない。仕事は「結果」が求められる。

③世の中の動きは非常に速い。非常に早い世の中の動きに伴って、お客様の抱える問題もどんどん変化し続ける。どんどん変化し続けるお客様の問題とは何かを考え続け、その解決方法を先手、先手を打ち示し続けなければ、お客様の満足のいく問題解決にはならない。

(参考)

マーケティングの4P	顧客(お客様)にとっての意味
・ Product (製品・サービス)	問題解決になること
・ Price (価格)	負担が少ないこと
・ Place (場所・流通)	便利なこと
・ Promotion (販売促進)	コミュニケーションになっていること

- ④世の中はどのように動いているのかを知る努力が必要。
- (ア)本をよく読むこと 「書き抜き読書ノート」
- (イ)新聞を1日1時間以上読むこと 「新聞を読んで考える」
- ⑤「コンピュータ」と「英語」は不可欠。「英検2級合格」「英字新聞1時間」「専門領域」(自分の専門分野を持つこと)。
- ⑥「道徳」は大切。相手の立場に立ってものごとを考えられること。特に、厳しい状態にある人の立場をよく「理解」すること。
- ⑦「法律」の範囲内で行動すること。
- (ア)犯罪行為はしないこと。
- (イ)違法行為はしないこと。
- (ウ)何が犯罪行為、違法行為なのかを知らないでは済まされない。
- (エ)「仕事についての法律」は、自分で十分学ぶこと。
- ⑧「道徳」や「法律」に反しない範囲であれば、あとは自由。自己責任。自助努力。
- *何をやってもよいという訳ではない。「道徳」や「法律」に反してはいけない。
- ⑨「躰(しつけ)」も大事。
- (ア)美しい立居振舞い(たちいふるまい)。
- (イ)敬語表現を含む言葉遣い。職場では「です、ます調(丁寧語)」が原則。

(3)健康第一(元気に職場に登場できるように)

- ①自分の健康(身体健康、心の健康)、家族の健康(身体健康、心の健康)があって、よい仕事ができる。
- ②どうすれば健康が維持できるか自分なりに考え、工夫しよう。
- ③病気とは闘うこと。必ず元気になる、必ずよくなると祈念して努力する。少しずつでもよいから努力する。
- ④ストレスをためない。楽しみを見つける。(森林浴や日帰り温泉は有効)
- * **Dental IQ**(歯科のIQ、歯は大切。毎食後、寝る前に歯磨きを→歯が悪いと仕事にならないから)

(4)身の周りのことは自分の力でできるようにしておく(高校卒業までに)

- ①早寝、早起き、朝ごはん
- ②そうじ(トイレそうじが一番大事)
- ③料理、洗濯、整理・整頓。
- ④収入の範囲内で支出を。借金はできるだけしないこと。お金が溜まってから使うこと。お金が溜まるまで使わないこと。お金は大切に。

(5)仕事を通して世の中の役に立つこと。お客様のお役に立つこと。すべての仕事には「社会的使命(mission, ミッション)」がある。自分の仕事の「社会的使命」とは何かを絶えず考え続けること。

(6)仕事の身に付け方(仕事で成功する方法)。

①「仕事」には、「教科書」はない。誰も丁寧に仕事を教えてはくれない。「自助努力」が大事。

②上司、同僚、お客様が教えて下さったことを「メモ」し続けること。学校で授業を受けているのと同じ態度で(相手の目を見て一語一句聞き漏らさないという真剣な態度で)話を聞き、必要なことはひたすらメモし続けること。わからないことがあれば、礼を尽くして質問させてもらうこと。「理解」が大事。取らせてもらった「メモ」を「理解」するまで考えながら読み返し、必要なことは書き足すなどして「メモの整理」をすること。一度「理解」したメモは、「音読練習」「書き取り練習」「計算(問題)練習」などをして、正確に「定着」させ、自分のものとする。実際に使ってみることで、応用力を身に付けること。

*しかし、最初は教わった通りにはできないもの。何回も失敗を繰り返し、少しずつできるようになるのが「仕事」。何回、何十回失敗してもめげないこと。

*「メモ」こそが、仕事で成功する秘訣。

③「師匠(ししょう)」を持つこと。お手本となるもの(ベスト・プラクティス)を持つこと。

- ・仕事の上での「師匠」を持つこと。あの人のようになりたいという人を持ち、「よいところ」だけを参考にすること。

- ・お手本(ベスト・プラクティス)を素直な気持ちで「よいところ」だけ参考にし、少しずつやってみること。(悪口は口にしないこと。ケチはつけないこと。)

④励まし合う仲間をつくること。

⑤「自己学習能力(自分で学び習う 能力)」を身に付けること。

⑥休みの日には、仕事についての本を読むこと。視察(見学)に出掛けること。

⑦仕事をする前に、仕事の段取り(手順)を考えること。(段取り八分)

⑧自分の仕事について、丁寧に説明すること。「説明責任」が果たせること。

4. これからの世の中はどうか。

(1)世界はどんどん豊かになっていく。

(ア)戦争に用いていた「人」「物」「金」が、「経済」つまり「豊かな生活」のために用いられるようになった。

(イ)世界中で、戦争の少ない経済活動が進みつつある。WTO, FTA, EPA などが大いに進み、「人」「物」「金」の移動が促進されつつある。

(ウ)問題はたくさんあるが、貧困層が少しずつ世界から減りつつある。(人口爆発で、少しずつ減りつつある貧困層も地域によっては撲滅できないではいるが…)

(エ)基礎的な教育(初等教育、中等教育)を受ける人口が激増。中等教育(中学校、高校での教育)を受けた人の多くは、高等教育機関(大学、大学院、短大、専門学校など)での教育を生涯にわたって受けたいと希望。新興諸国ほど、高校生や大学生、大学院生はよく勉強している。自分と自分の家族、自分の故郷や自分の国家をよりよくするために勉強する小学生、中学生、高校生、大学生、大学院生が世界各地に億単位で出現している。これは、明治維新前後の日本、終戦後の日本の状況に非常によく似ている。

(オ)「英語」と「コンピュータ」は必要不可欠。これに加えて「専門領域」を持つことが世界の若者の共通した目標。

(カ)このような「勉強」をした人ほどより高度な仕事が世界規模でできるのが、これからの世界。現代的な課題を抱えた顧客(お客様)の問題解決には、世界的な視野からの世界的なレベルでの高度な仕事が求められる。

(キ)自分にとっての専門領域をどう見出すか。

- ・新聞を2～3種類毎日1時間読むことで、世界の動きを知る。
- ・これぞというものがあったら、どんどん「見学」に出掛けること!!

(2)日本はどんどん長寿社会に。

(ア)日本は、世界でもまれな長寿国になった。

(イ)健康管理さえ十分にすれば、誰でも100歳以上の長寿が望まれる日本になった。

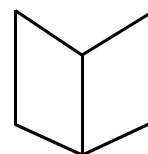
(ウ)「幸せとは何か」の答えの一つに、「長生きできること」がある。日本人は世界一幸せな国民と言える。

(エ)しかし、ただ単に長く生きているだけでは余りにももったいない。「いつまでも若々しく生きること」が大事。

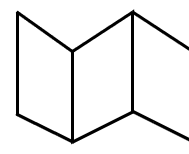
(オ)日本の国家財政は危機に陥っているので、自分自身でも一生涯何らかの形で働き続けることも大事。「生涯現役」を目指して頂きたい。

(3)びょうぶ型人生のススメ。

(ア)仕事の他に、「ボランティア活動」「NPO活動」「趣味」「やりたいこと」「スポーツ」など2～3見つけ、少しずつ挑戦し、レベルを上げていく。30年くらいかけてもまだ50歳。それからさらに50年間やり100歳になるのも面白い生き方。(その分野でも、「理解」→「定着」→「応用」は役立つ)



「2枚びょうぶ」



「3枚びょうぶ」

(イ)日本国内だけではなく、世界中に仲間が見つければ、充実した人生が送れる。「励まし合う仲間」は世界中にいるハズ。

(4)自分のよさをどんどん伸ばそう。

(ア)家族のよさ、友人のよさ、東日本学院のよさ、福島のよさ、日本のよさ、ASIAのよさ、地球のよさを、できるだけ具体的に搜してみよう。

(イ)最後に自分のよさも搜してみよう。自分のよさを素直に認め、どんどん伸ばそう。

(5)Diversity(ダイバーシティ)多様性はそのまま認める「寛容」な心を。これからの世の中は、世界中の人々がどんどん交流する世の中。自分にとっての異文化は、相手にとっても異文化。お互いその存在を認め合おう。

(6)一生勉強、一生青春。

大学や大学院に何年かに一度は行き、死ぬまで楽しく勉強しよう。

御清聴を感謝申し上げます。

－ 2007年6月30日記－